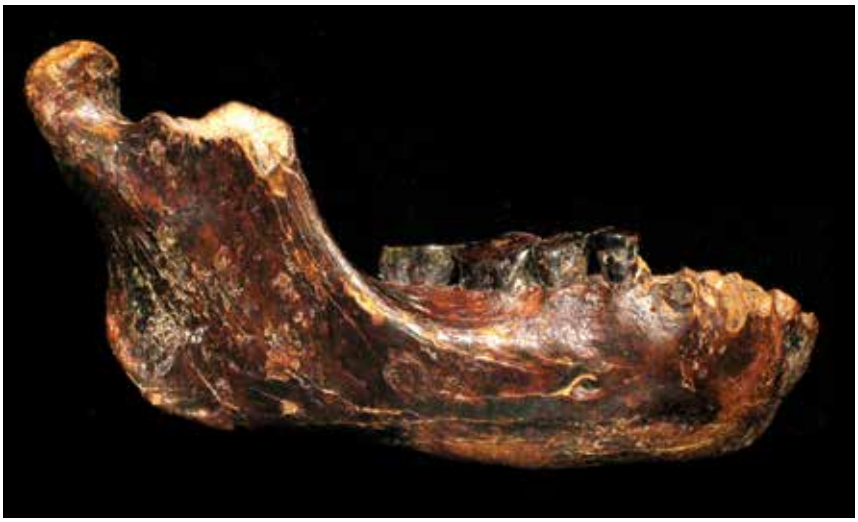
ISSN　1341-724X

QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 32 No.2, 2025



台湾海峡の海底から引き揚げられた澎湖人の下顎骨化石。
古代プロテオミクス解析により「デニソワ人」であること
が判明し、2025 年 4 月に発表された。（撮影：海部陽介）

Vol. 32 No. 2　　**May 1, 2025**

2025 年大会案内（第 3 報）..... 2
JpGU2025 案内（第 3 報）..... 6
学会賞・学術賞受賞講演会報告..... 10
評議員会議事録.....11
執行部会議事録..... 20
学生・院生会費継続届け提出のお願い
..... 21
評議員会案内..... 21
紙碑 22
会員消息..... 23

日本第四紀学会　**Japan Association for Quaternary Research**

◆日本第四紀学会 2025 年大会案内（第 3 報）

日本第四紀学会 2025 年大会は、島根大学で開催されます。島根県での開催は、2005 年大会以来となり、20 年ぶりとなります。今大会では、大会前後に 3 つの多様な巡検を用意しました。松江周辺の植生、大山火山のテフラ、そして三瓶火山の 4000 年前の噴火で埋没した縄文の森とたたらです。大会に参加して頂くこの機会を活用して、山陰の地質、地形、文化などを堪能して頂ければ幸いです。皆様のお越しをお待ちしています。

一般研究発表（口頭およびポスター）、シンポジウム、専門巡検を中心に、島根大学松江キャンパスを会場として開催します。一般研究発表、各種参加申込等については、昨年と同様に大会専用サイトからの申込みとなります。大会に関する情報は随時、学会メーリングリストと大会専用サイトを通じてお知らせします。

1. 全体概要

開催会場：島根大学松江キャンパス（〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060、最寄バス停：島根大学前（JR 松江駅から 15 ～ 20 分））
https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/transport_access/campus_map/campus_map01.html

開催日程（全期間）：2025 年 8 月 28 日～ 9 月 1 日
8 月 28 日（木）専門巡検 1（植生）、評議員会
8 月 29 日（金）一般研究発表（口頭およびポスター）
8 月 30 日（土）一般研究発表（口頭およびポスター）、総会（ハイブリッド形式）、懇親会
8 月 31 日（日）シンポジウム（公開）、普及講演会
9 月　1 日（月）専門巡検 2（大山）、専門巡検 3（三瓶とたたら）

共催：島根大学エスチュアリー研究センター（予定）
日本植生史学会（専門巡検 1 プレ植生のみ）

2. 各種申込の受付開始日と締切日

・大会参加、一般研究発表申込、専門巡検申込の受付開始：6 月 2 日（月）
・一般研究発表の申込・講演要旨原稿提出締切：7 月 10 日（木）17 時
・公開シンポジウムの講演要旨原稿提出締切：7 月 10 日（木）17 時
・巡検参加申込締切：7 月 25 日（金）17 時
・参加申込締切（一般研究発表）：8 月 22 日（金）17 時
・プログラム公開：8 月 1 日（金）（予定）
※巡検参加申込は先着順となるため、早期に締切ることがあります。

3. 申込方法

大会専用サイト https://sites.google.com/view/2025jaqua/ から申込んでください。

申込方法の詳細については、大会専用サイトを通じてお知らせします。大会専用サイトは準備ができ次第、学会メーリングリスト等で周知します。サイトオープンは 5 月の予定です。

1）発表形式と発表時間について
・一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者（資格は会員であること）としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ 1 人 1 件の発表申込が可能です。
・口頭発表の時間は 1 件 15 分（質疑応答時間含む）です（発表件数によって変更の可能性があります）。ポスター発表にはポスターショートトークとコアタイムを設けます。
・発表形式は申込時に希望する方を選択してください。発表件数によっては、必ずしも希望の形式にならない場合もあります。あらかじめご了承ください。

2）参加・発表申込と講演要旨の提出方法

・大会参加には事前申込が必要です。また、発表を行うには講演要旨の提出が必要です。
・非会員の方で筆頭著者として一般研究発表（シンポジウムと普及講演会を除く）を希望される場合は、至急入会手続きをお願いします。日本第四紀学会への入会手続きは、学会ウェブサイト「入会案内・入会手続き」をご覧ください。
・講演要旨のテンプレートは大会専用サイトよりダウンロードできます。
・講演要旨集（無料、電子版のみ）は大会前に大会専用サイトからダウンロードできます。
・講演要旨の原稿は A4 で 1 ページ（図表掲載可）です。「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。講演要旨作成の際、テンプレートのフォントや行数などの設定は変更しないようにしてください。
・会員のうち 2025 年 7 月 1 日現在で 35 歳以下の方は若手発表賞に、学生・大学院生の方は学生発表賞にエントリーできます（両方へのエントリーはできません。また、筆頭著者でない場合はエントリーができません）。エントリー希望の方は、申込フォームの該当箇所に記入してください。

4. 参加費

1）大会

会員：1,000 円、非会員：2,000 円
大学院生・学部生（会員・非会員問わず）と 70 歳以上の会員および 8 月 31 日のみ参加する方：無料

2）懇親会

一般（8/1 までの事前予約）：5,000 円、大学院生・学部生：3,000 円、8/2 ～当日までの申込：6,000 円

3）巡検

専門巡検 1 プレ植生（会員のみ：日本植生史学会員を含む）：2,000 円
専門巡検 2 ポスト大山（会員のみ）：3,000 円
専門巡検 3 ポスト三瓶とたたら（会員のみ）：6,000 円
※巡検参加費にはレクリエーション保険代が含まれます。

5. 詳細スケジュール・会場

8 月 28 日（木）	8:30 ～ 17:00	専門巡検 1
	（時間未定）	評議員会
8 月 29 日（金）	9:00 ～	受付開始
	9:30 ～ 11:30	一般研究発表
	11:30 ～ 12:00	ポスターショートトーク
	13:00 ～ 14:00	ポスター発表
	14:00 ～ 17:30	一般研究発表
8 月 30 日（土）	8:30 ～	受付開始
	9:00 ～ 11:30	一般研究発表
	11:30 ～ 12:00	ポスターショートトーク
	13:00 ～ 14:00	ポスター発表
	14:00 ～ 15:45	一般研究発表
	16:00 ～ 17:30	総会
	18:00 ～ 20:00	懇親会
8 月 31 日（日）	8:30 ～	受付開始
	9:00 ～ 12:30	シンポジウム
	13:30 ～ 15:00	普及講演会
9 月　1 日（月）	8:00 ～ 17:00	専門巡検 2、専門巡検 3

会場：島根大学松江キャンパス
- 大学ホール：一般研究発表、総会
- 教養講義棟 1 号館 102 教室：展示・休憩室
- 教養講義棟 1 号館 101 教室：ポスター会場
- 教養講義棟 1 号館 201 教室：評議員会
- 第二食堂 ニコラ 2 階：懇親会

6. シンポジウム「後期完新世の気候変動と人間活動との関係を探る（仮題）」

2025 年 8 月 31（日）9:00 ～ 12:30　島根大学松江キャンパス　大学ホール

趣　旨：中期完新世の温暖な気候から 4.2ka の寒冷イベントを経て、気候変化の大きな後期完新世となります。後期完新世は、縄文から弥生、古墳を経て歴史時代に変遷した時代であり、気候変動や環境変化が人間活動と密接に関係し、大きな影響を受けて文化が移り変わってきた時代でもあります。これらの変動と連関を様々な視点から議論する予定です。古気候関係から 2 名、考古関係から 2 名の講演者を予定しています。5 月のサイトオープン時にプログラムを公開予定です。

7. 普及講演会「縄文時代から現在に至る出雲平野・宍道湖の移り変わり」

2025 年 8 月 31（日）13:30 ～ 15:00　島根大学松江キャンパス　大学ホール

齋藤文紀（島根大学エスチュアリー研究センター 特任教授）

會下和弘（島根大学総合博物館 館長・教授）

8. 巡検

各種巡検の情報は 2025 年 4 月 15 日現在の情報です。すべての巡検は天候等によっては変更・中止・延期の可能性があります。実施内容や申込方法の詳細などは今後大会専用サイトを通じて最新の情報を掲載します。

1）専門巡検 1「松江周辺の植生」（8 月 28 日）日本植生史学会との共催

内　容：松江市内、田和山（里山）と枕木山（暖温帯林：針広混交林）の植生見学

案内者：井上雅仁（三瓶自然館）、渡邉正巳（島根大学エスチュアリー研究センター）

日　時：8 月 28 日（木）9:00 ～ 17:00

方　法：レンタカーで移動

行　程：9:00 松江駅集合～田和山の里山～松江駅に帰って各自昼食、13:00 松江駅集合～枕木山～松江駅解散予定（17:00)

定　員：14 名（先着順・日本第四紀学会、日本植生史学会会員限定）

参加料金：2,000 円（レンタカー代、資料代、保険代込）

※昼食は松江駅周辺で各自お取り下さい。

※水筒やペットボトル飲料の持参、帽子着用などの熱中症対策を各自でお願いします。

※一部、登山道や足場が悪い場所を徒歩で移動します。長袖、長ズボン着用の上、登山靴などでご参加ください。

※集合場所まで、解散場所からの交通費は自己負担となります。

2）専門巡検 2「大山東麓・南麓のテフラ」（9 月 1 日）

内　容：大山周辺に分布するテフラを見学する。見学する予定のテフラは以下の通りです。
bvs/cpm/dpm1/dvs/dpm2/evs/fpm1/fvs/fpm2/fpm3/gpm/hpm1/hpm2/DBP/DMP/DHP/SK/DAP1/DAP2/DNP/DSP/DKP/AT/SaA/Od/HgA/HgP/DKg(鏡ヶ成軽石）/Nz1（野添火山灰 1）/Nz2（野添火山灰 2）/KiA（キリン火山灰）

案内者：石賀　敏（鳥取地学会）、渡邉正巳（島根大学エスチュアリー研究センター）

日　時：9 月 1 日（月）8:00 ～ 17:00

方　法：レンタカーで移動

行　程：松江駅集合（8:00）― 伯耆町福岡原（DMP）― 江府町笠良原（大山上部火山灰と NzA1/NzA2/KiA）― 蒜山上井川（DOP/DBP/DHP）― 倉吉市大山池（大山最下部火山灰～大山上部火山灰）― 倉吉市般若西（大山最下部火山灰と大山上部火山灰）― 米子空港 ― 松江駅解散予定（17:00）

※天候等によってルートや行程は変更になる可能性があります。

定　員：15 名（先着順・会員限定）

参加料金：3,000 円（レンタカー代、資料代、保険代込）

※昼食は各自事前にご準備ください。

※水筒やペットボトル飲料の持参、帽子着用などの熱中症対策を各自でお願いします。

※集合場所まで、解散場所からの交通費は自己負担となります。

3）専門巡検 3「三瓶小豆原埋没林とたたら」（9 月 1 日）

内　容：三瓶山の 4000 年前の噴火によって埋没し、地底に保存された縄文の森ミュージアム、たたら製鉄のための鉄穴流しやそれによって形成された棚田や残丘地形を概観します。

案内者：中村唯史（三瓶自然館）、齋藤文紀（島根大学）

日　時：9 月 1 日（月）8:00 ～ 17:00

方　法：中型バスで移動

行　程：8:00 松江駅発、大田市さんべ縄文の森ミュージアム（三瓶小豆原埋没林）、奥出雲町の福頼棚田展望台、羽内谷鉱山鉄穴流し本場、安来市和鋼博物館を経由して松江駅着 17:00

定　員：最大 25 名（先着順・会員限定）

参加料金：6,000 円程度（バス代、ミュージアム・博物館入館料、保険代込）

※昼食は各自事前にご準備ください。

※水筒やペットボトル飲料の持参、帽子着用などの熱中症対策を各自でお願いします。

※集合場所まで、解散場所からの交通費は自己負担となります。

9. 大会参加者への注意事項

1）来場方法

公共交通機関をご利用ください。

https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/transport_access/campus_map/campus_map01.html

＊松江市営バス

- 北循環線内回り　島根大学前下車……所要時間約 15 分
- 島根大学・川津行　島根大学前下車……所要時間約 20 分

※他に「東高校」もあります。

＊一畑（いちばた）バス

- 美保関（みほのせき）ターミナル行　島根大学前下車……所要時間約 20 分

2）昼食は各自でご準備ください。学内には食堂（日曜は休業）、大学前にはコンビニなどがあります。近隣にもわずかですが飲食店はあります。

10. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：齋藤文紀（島根大）

実行委員：瀬戸浩二、香月興太、入月俊明、酒井哲弥、渡邉正巳（島根大）、中村唯史、井上雅仁（三瓶自然館）、石賀　敏（鳥取地学会）

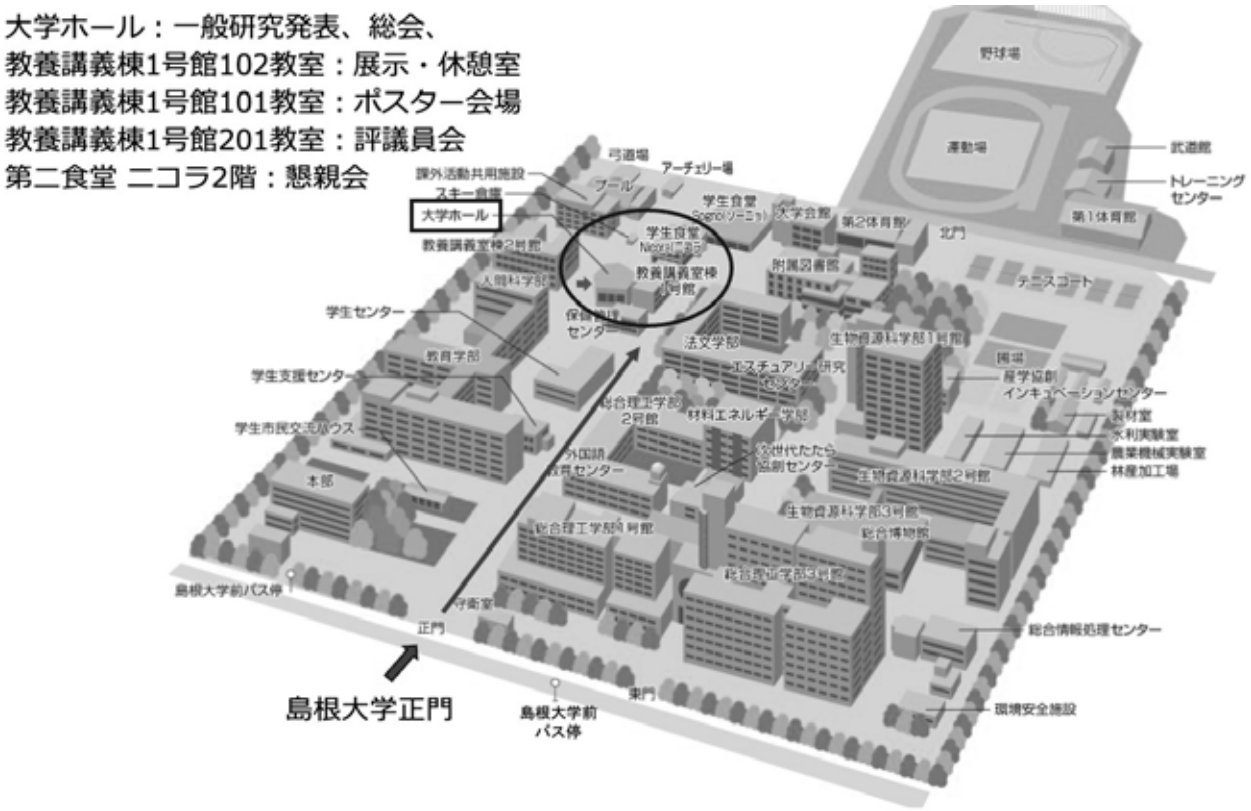
行事委員会：池原　実（高知大・行事委員長）、木村英人（株式会社ソイルシステム）、久保純子（早稲田大）、中塚　武（名古屋大）、西澤文勝（神奈川県立生命の星・地球博物館）

連絡先：2025 年大会実行委員会事務局

〒 690-8504　松江市西川津町 1060　　島根大学エスチュアリー研究センター　齋藤文紀

Tel：0852-32-6037　　メール：ysaito (at) soc.shimane-u.ac.jp（ (at) を (at) に変える）

会場案内



◆日本地球惑星科学連合 2025 年大会のお知らせ (第 3 報）

日本地球惑星科学連合 2025 年大会（JpGU2025）は、2025 年 5 月 25 日（日）から 5 月 30 日（金）までの 6 日間、現地開催（会場 : 幕張メッセ）とオンライン開催をミックスしたハイブリッド方式で開催されます。昨年に引き続き、大会参加予定のすべての皆様に対して、大会参加プラットフォーム「Confit」が準備されます。

詳細および最新情報は、JpGU2025 ホームページ（http://www.jpgu.org/meeting_j2025/）をご確認ください。

【今後の主な日程】

5 月 15 日 (木）23:59　　参加登録通常締切

この日までに参加登録を済ませた方は、5 月 16 日の予稿公開と同時に Confit システムにログインができるようになります。

5 月 16 日 (金）～ 5 月 29 日 (木）23:59　　参加登録開設期間

Confit へのログインは登録いただいた翌日 9:00 以降になります。<u>現地参加される場合も来場前日に必ず大会参加登録をお済ませください。</u>

5 月 16 日 (金）　　予稿 PDF 公開

【日本第四紀学会の関わる学協会セッション】

H-QR05「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」
　　口頭発表：5 月 29 日（木）AM1-PM1
　　ポスター発表コアタイム：5 月 29 日（木）PM3
S-SS14「活断層と古地震」
　　口頭発表：5 月 26 日（月）AM1-PM2
　　ポスター発表コアタイム：5 月 26 日（月）PM3
U-02「人新世・第四紀の気候および水循環」
　　口頭発表：5 月 28 日 (水）PM1-PM2
　　ポスター発表コアタイム：5 月 28 日（水）PM3
H-DS11「人間環境と災害リスク」
　　口頭発表：5 月 25 日 (日）AM1-AM2
　　ポスター発表コアタイム：5 月 25 日 (日）PM3
A-HW27「流域圏生態系における生物多様性・栄養循環・物質輸送」
　　口頭発表：5 月 29 日（木）AM1-PM2
　　ポスター発表コアタイム：5 月 29 日（木）PM3
※ それぞれの時間帯は以下のとおりです
　AM1：9:00-10:30、AM2：10:45-12:15、PM1：13:45-15:15、PM2：15:30-17:00、PM3：17:15-19:15
※ポスター発表のショートトークは、今回はありません

【第四紀学会単独・主催セッションプログラム】

紙面の都合上、一部省略しての掲載となります。詳細については大会 HP を参照ください。

● H-QR05『第四紀 : ヒトと環境系の時系列ダイナミクス』（コンビーナ : 白井正明、横山祐典、吾妻　崇、里口保文）　5 月 29 日（木）

口頭発表：

9:00 ～　9:15　加　三千宣ほか：全球の人為痕跡の急増：人新世の始まりの定義に向けて
9:15 ～　9:30　内藤裕一：古ゾウの象牙質コラーゲンを構成するアミノ酸の同位体比からみた後期更新世日本列島の環境：予備的研究
9:30 ～　9:45　田村　亨ほか：秋田平野における浜堤群仮説の検証
9:45 ～ 10:00　稲崎富士ほか：H/V 単点微動測定による筑波山北西域の基盤伏在構造マッピング
10:00 ～ 10:15　前田優樹ほか：OSL 年代測定の完新世河成堆積物に対する応用の可能性
10:15 ～ 10:30　鈴木毅彦ほか：関東平野西部，狭山層で新たに検出された前期更新世西久保テフラ
10:45 ～ 11:00　白井正明ほか：多摩丘陵北縁に分布する上総層群稲城層上半部の堆積環境の変遷
11:00 ～ 11:15　中澤　努ほか：横浜大岡川低地の地質構成と地盤震動特性：極めて軟弱な沖積層とその基盤をなす固い上総層群
11:15 ～ 11:30　北村晃寿：熱海市伊豆山地区土砂災害の盛土と土石流堆積物に含まれる軟質泥岩礫
11:30 ～ 11:45　石井祐次：天竜川下流域における MIS 6 の扇状地性段丘の形成
11:45 ～ 12:00　牛田　彩ほか：神戸市池堆積物の球状炭化粒子（SCPs）記録からみた大気環境汚染史とその供給源の推定
12:00 ～ 12:15　唐　双宁ほか：中海における後期完新世の数百年スケールの古環境変動
13:45 ～ 14:00　小松原純子ほか：常時微動データを用いて微高地を判別する試み：福岡県糸島低地の例
14:00 ～ 14:15　納谷友規ほか：大分県姫島の更新統唐戸層における Aso-4 テフラ挟在層準の堆積環境
14:15 ～ 14:30　鹿島　薫ほか：珪藻群集を用いた台南市鹽水溪における水質環境モニタリングと人新世環境復元への応用
14:30 ～ 14:45　多田隆治ほか：アナトリア中部ナール湖年縞堆積物の特徴と高解像度古気候・古環境復元の可能性

14:45 ～ 15:00　多田賢弘ほか：アナトリア中部カマン・カレホユック遺跡におけるゴミ堆積物調査：過去 5000 年にわたる資源利用様式の変遷の復元に向けて

15:00 ～ 15:15　北村　繁ほか：中米・チャルチュアパ地域のウスルタン様式土器の製作に利用された火山灰の採取方法 ～胎土中の火山ガラスの WDS 分析を用いて～

ポスター発表：

P01　白銀美里ほか：過去 30 万年間の更新統段丘と完新世段丘の隆起速度の違いについて

P02　石井祐次ほか：ルミネッセンス年代測定による十勝平野の河成段丘の形成過程の解明

P03　井田貴史ほか：青森県下北半島東部，鮮新統～更新統間における不整合の発見と層序再構築に向けた検討

P04　杉浦綸文ほか：北上川支流，迫川下流に発達する沖積低地および伊豆沼の発達過程

P05　米岡佳弥ほか：都市域の 3 次元地質地盤図：埼玉県南東部の更新統下総層群に見られる構造運動と埋没谷地形

P06　木村英人：千葉県市原市南部養老川東部の地質と姉崎 5 万分の 1 地質図幅との接続の試み

P07　布施太郎ほか：千葉県市原市田淵地区における更新世上総層群国本層の層序の検証

P08　葉田野　希ほか：諏訪湖湖底遺跡の堆積物コア解析による縄文時代以降の湖水位変動の復元

P09　山田圭太郎ほか：グラフ理論に基づく対比モデルの効率的な構築・管理手法の提案

P10　田中陶子ほか：琵琶湖堆積物における過去 2 万年間の全有機炭素濃度と微粒炭量―更新世末期の全有機炭素と微粒炭の急増について―

P11　西澤文勝ほか：鹿児島地溝における過去 300 万年間の大規模火砕流堆積物の火山ガラス主成分化学組成

P12　大谷　薫ほか：Archaeological obsidian study of Paektu-san (Changbai-shan) and Mafic obsidian sources in Continental Northeast Asia

P13　YUFAN HU ほか：The Impact of Yellow River Floods on Ancient cities over 2500 years: Archaeological Evidence from Shangqiu, China

P14　春木美桜ほか：貝形虫を用いた中央アナトリア地域における過去 5000 年間の古環境推定

P15　木下　敢ほか：トルコ中部 Eski Acıgöl 湖堆積物中の珪藻遺骸を用いた中期～後期完新世の湖沼環境変化とその気候・社会的影響の考察

P16　渡邊千隼ほか：カマン・カレホユック遺跡及び周辺における微粒炭量の変化と人間活動との関係

● S-SS14『活断層と古地震』（コンビーナ：小荒井　衛、矢部　優、大橋聖和、楮原京子）　5 月 26 日（月）

口頭発表：

9:00 ～　9:15　松浦律子ほか：新しい日本および周辺の歴史地震・被害地震カタログについて

9:15 ～　9:30　纐纈一起ほか：古代の地震の震央とマグニチュード

9:30 ～　9:45　田村友識ほか：北海道北部、問寒別断層帯において発見された断層露頭

9:45 ～ 10:00　三條竜平ほか：宮城県鬼首カルデラ南西縁，鬼首断層の変動地形学的特徴と活動性

10:00 ～ 10:15　小荒井　衛ほか：常時微動計測から推定されるいわき市塩ノ平断層の過去の活動

10:15 ～ 10:30　二ノ宮　淳ほか：空中重力偏差法探査データを用いた海陸境界域の断層構造抽出

10:45 ～ 11:00　石山達也ほか：三浦半島断層群および海域延長部（相模湾側）のマルチスケール反射法地震探査

11:00 ～ 11:15　芦　寿一郎ほか：海底イベント堆積物を用いた相模トラフ沿いの地震履歴の推定

11:15 ～ 11:30　藤野滋弘ほか：13 世紀に駿河湾で地震と津波が発生した可能性

11:30 ～ 11:45　Charlotte Olivia Pizer ほか：Geological evidence for repeated slip-to-the-trench style megathrust earthquakes at the Japan Trench（招待講演）

11:45 ～ 12:00　Myra Keep ほか：Mud volcanism and diapirism along the Japan Trench axis: implications for earthquake hydrology

12:00 ～ 12:15　後藤秀昭：海底活断層の位置形状の把握に欠かせない海底変動地形学―沿岸活断層から

プレート境界断層まで―
13:45 ～ 14:00 宍倉正展ほか：能登半島北部沿岸における低位段丘の掘削調査（招待講演）
14:00 ～ 14:15 赤井　東ほか：能登半島北部沿岸の低位段丘の調査―北西部吉浦周辺の詳細地形と表層構造および北東部での光ルミネッセンス年代測定結果―
14:15 ～ 14:30 レゲット　佳ほか：カンザシゴカイの放射性炭素年代測定による能登地震の履歴解析
14:30 ～ 14:45 近藤久雄ほか：中央構造線断層帯・石鎚山脈北縁区間と石鎚山脈北縁西部区間の連動性評価―プルアパート盆地周辺の上下変位履歴の復元―
14:45 ～ 15:00 大上隆史ほか：伊予灘北部海域における高分解能反射法音波探査
15:00 ～ 15:15 島崎邦彦ほか：室津港の歴史地震隆起と次の南海トラフ地震
15:30 ～ 15:45 小村慶太朗ほか：地震前後空中写真を用いたピクセルマッチングによる地表地震断層の再検討―1995 年兵庫県南部地震の例―（招待講演）
15:45 ～ 16:00 鉢呂和己ほか：光学衛星画像ピクセルオフセット解析による 2023 年トルコ南東部地震の地表断層変位計測と精度検討
16:00 ～ 16:15 白濱吉起ほか：1969 年に生じた Huaytapallana 地震断層におけるトレンチ調査結果
16:15 ～ 16:30 KuanYu Chen ほか：Surface ruptures in Dongli and Fuli area of the September 18, 2022, Chihshang earthquake, Eastern Taiwan
16:30 ～ 16:45 堤　浩之ほか：繰り返しアレイ測量によるフィリピン断層のクリープ変位速度分布と中規模地震の発生位置の関係

ポスター発表：

P01　永田秀尚：能登半島，若山川沿いの地質構造：岡田背斜を中心に
P02　平松良浩ほか：石川県西方沖の 2024 年 M6.6 の地震に関する地震活動と重力異常に基づく断層構造
P03　後藤玲奈ほか：海食地形調査に基づく能登半島北東部の地震活動の推定
P04　宮坂泰希ほか：2024 年能登半島地震に伴い珠洲市若山町に生じた地表変状の地中レーダ探査による極浅部地下構造の解明
P05　乗松君衣ほか：強震動予測のための断層モデル設定方法の検討：2024 年能登半島地震を例に
P06　白濱吉起ほか：能登半島珠洲市若山川沿いにおける河岸侵食によって現れた地表変状付近の断層露頭
P07　安江健一ほか：珠洲市若山川沿いに生じた断層の掘削調査と周辺の露頭観察
P08　近藤梨紗ほか：沿岸域の隆起地形に着目した活構造の復元の試み：津軽平野西縁部の例
P09　田﨑陽平ほか：折爪断層における浅層反射法地震探査および重力探査
P10　下茂道人ほか：メタンマイグレーションパスとしての青沢断層の役割：―空間連続性とメタン起源についての考察―
P11　佐藤善輝ほか：伊勢湾西岸における津沖撓曲の雲出川低地への連続性
P12　太田耕輔ほか：福岡県西山断層西山区間の活断層調査―福津市勝浦地区における群列ボーリング調査―
P13　吉見雅行ほか：福岡県西山断層西山区間の活断層調査―微動観測と S 波反射法地震探査で判明した陥没構造―
P14　宮下由香里ほか：福岡県西山断層帯および宇美断層における稠密重力探査
P15　内田嗣人ほか：単点微動調査から推定される大分平野周辺の基盤地質構造
P16　亀井佑馬ほか：深夜・未明に発生した歴史地震の日付に関する新たな日付決定手法の提案
P17　石辺岳男ほか：『竹斎日記稿』に記録された有感記録の抽出とその時間的変化の検討

◆ 2024 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会報告

東京大学　南舘健太

2025 年 2 月 22 日、2024 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会がオンラインで開催され、75 名が参加した。学会賞を受賞した高原　光会員（京都府立大学）、学術賞を受賞した加　三千宣会員（愛媛大学）、田村　亨会員（産業技術総合研究所）による記念講演が行われた。

高原会員の講演では、「さらに詳細な古植生復元をめざして」という題目のもと、古植生復元に関する基礎研究から複数の手法を組み合わせた最新の研究までが網羅的に紹介された。高原会員は、植生が多様な要因の影響を受けることを強調し、特に定量的植生復元のためには、花粉生産量や堆積盆のサイズが重要な要素であると指摘した。特定の樹種の花粉生産量が多い場合、それらが過大に復元される可能性があるため、正確な植生復元には樹種別の花粉生産量データを取得することが不可欠である。そのため、高原会員らは日本列島各地でリタートラップを用いた調査を実施し、多大な調査に基づいた樹種別の花粉生産量データを掲示した。また、走査電子顕微鏡を用いた種レベルの花粉分析についても紹介された。琵琶湖周辺地域や別府湾の研究を通じ、完新世から歴史時代の気候変動や人間活動と植生変遷が密接に関わっていたことが示された。さらに、花粉と大型植物遺体の組み合わせによる局地的および地域的な植生復元が進められ、最終氷期最盛期の植生分布が明らかになりつつある。本講演では、伝統的な花粉分析手法を基盤としつつ、複合的なデータを活用することで、より精細な古植生復元が可能となることが示された。

加会員の講演「別府湾堆積物研究から人新世の科学的根拠に至るまで」では、研究経歴を振り返るとともに、人新世研究への発展経緯や国際的な議論の現状が紹介された。加会員は、学生時代に触れていた一見離れたテーマが、人新世研究へと収束する過程を語った。その出発点の一つが豊後水道の底入り潮の研究であり、栄養塩生産と黒潮変動の関わりが明らかにされた。その後、魚類資源と大気海洋変動の関係解明に向け、別府湾堆積物コアの分析を開始。2005 年の新たなコア採取と共同研究グループの拡大を契機に、堆積層の層序・年代の確立、数千年間の魚鱗堆積記録の復元、太平洋を東西に跨ぐマイワシと大気海洋過程のリンクの発見などが達成された。一連の研究は人新世の科学的根拠を探る研究に発展し、別府湾の堆積物が人為影響の指標を豊富に含むことから、人新世作業部会の国際模式地選定プロセスにおいて重要な候補地となった。加会員は研究代表者として、精密な年代モデルと放射性同位体、有機化合物、珪藻等の多くの分析結果に基づき、人為影響の痕跡が 1953 年頃から急増したことを示し、「大加速の始まり」として人新世境界を提唱した。人新世の公式認定は否認されたものの、加会員は科学的証拠の積み上げが今後の議論に寄与するだろうと展望を述べた。

田村会員の講演「砂質海岸堆積物の年代測定から何が分かるのか？」では、沿岸域における地形・地層の形成過程と年代測定の応用に関する研究成果と今後の展望が示された。まず、浜堤平野沖積層の堆積学的研究が紹介され、九十九里平野と仙台平野を対象に、堆積物コアの年代決定による地層の発達過程が調査され、その多様性と決定要因が示された。その後、地層記録解析の高分解能化に向け、地中レーダ探査を導入。九十九里平野では、地中レーダの連続探査によって非破壊で前浜相の検出が達成された。さらに、数十年から数十万年前までの幅広い時代に適用可能な OSL 年代測定の導入・応用事例が紹介された。鳥取砂丘では、地中レーダ探査と OSL 年代測定に基づき、小氷期・中世温暖期に対応する飛砂・冬季モンスーンの変動と地層発達の関連が明らかにされた。国内外の多様なセッティングの研究事例が紹介され、特に 1970 年代にストームによる深刻な侵食が発生したオーストラリア南東部においては、17 世紀後半にも大規模な侵食が発生していたことを発見した。田村会員は考古学的研究や表層土砂の動態研究にも着手しており、OSL 年代測定の幅広い応用可能性が示された。

本講演では、気候変動や人新世、海岸地形発達などの第四紀学的および社会的に重要性が増している課題に関連する研究が発表された。受賞者 3 名は、最新の知見や技術を取り入れつつ、継続的で忍耐強い姿勢で研究を積み重ね、肝要な成果を発表し続けている。浅学の身の筆者は、本講演を通じ、不易流行の両面の重要性を痛感した。また、個々の論文からは見えにくい、線としての研究者の歩みを垣間見る貴重な機会となった。最後に、このような機会を提供してくださった、受賞者の方々および学会関係者の皆様に深く感謝し、ここに筆を置く。

◆日本第四紀学会 2024 年度 4 回評議員会議事録

日　時：2025 年 2 月 22 日（土）13:00 ～ 15:00
方　法：Zoom システムを用いたオンライン形式
出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、須貝俊彦（副会長）、＜以下、評議員＞水野清秀（議長）、井上　淳（副議長）、青木かおり、池原　実、石原与四郎、奥村晃史、苅谷愛彦、木村英人、久保純子、加　三千宣、小荒井　衛、齋藤めぐみ、佐藤善輝、里口保文、白井正明、中塚　武、林　竜馬、堀　和明、山田和芳、横山祐典　以上 23 名
委任状：議長委任 11 通
オブザーバー出席：なし

水野清秀議長、鈴木毅彦会長の挨拶後、定足数の確認を行い、本評議員会が成立したことを確認した。以降は水野議長による議事が進められた。最後に須貝俊彦副会長の挨拶で閉会となった。

報告事項

(1) 2024 年度事業中間報告
資料 1 に基づき、担当の各委員長、領域代表または山田和芳庶務委員長が代読する形で報告が行われた。

(2) 2024 年度会計中間報告
資料 2 に基づき、堀　和明会計委員長から報告が行われた。

審議事項

(1) 役員選挙規程の一部改正および役員選挙の取扱い等に関する内規策定について（承認）
山田庶務委員長から、役員選挙規程の一部改正（資料 3）及び役員選挙の取扱いに関する内規（資料 4）の策定について下記の内容を中心とした執行部提案の説明があった。

① 評議員定数決定の計算方法の変更
② 郵便投票の廃止
③ 評議員定数決定に関連する正会員数、領域未指定会員の被選挙権・選挙権に関する考え方

これらの提案内容と関連する規程改正や内規の文言内容について審議を行った。その結果、役員選挙規程については一部原案修正の上で、それ以外はそのまま賛成多数にて承認された。

(2) 学会設立 70 周年記念大会（2026 年大会）について（承認）
鈴木会長から、学会設立 70 周年記念大会となる 2026 年大会の開催時期や組織に関すること、学会設立 70 周年記念事業委員会（特別委員会）の追加委員に関する執行部提案の説明があった。
具体的には、開催場所については産業技術総合研究所（茨城県つくば市）として、時期は 2026 年 8 月 20 日（木）～ 22 日（土）とするものの、「つくばまつり」開催によっては変更する可能性があること。2026 年大会実行委員会は委員長を藤原治会員（産業技術総合研究所）として、委員については吾妻　崇・納谷友規会員（同研究所）を中心にして組織化すること。関連して学会設立 70 周年記念事業委員会内規にしたがい、未定となっていた 2026 年大会実行委員会関係の委員について藤原　治会員、吾妻　崇会員、納谷友規会員を新たに追加することである。
この件については審議の結果、賛成多数で承認された。

(3) その他
会費長期滞納者リストを確認した。

【資料 1】　2024 年度事業中間報告
（2024 年 7 月 1 日～ 2025 年 2 月中旬までの経過）

1-1　庶務委員会（委員長：山田和芳）

(1) 2024 年度の学会賞選考委員会、論文賞選考委員会、学会設立 70 周年記念事業委員会、選挙管理委員会の各委員、2024 年度評議員会議長及び議長代理を決定し、委嘱を行った。
(2) 総会を 2024 年 8 月 31 日に大会会場の東北大学青葉山北キャンパスでの対面と Zoom システムを用いたオンラインによるハイブリッド会議として行った。評議員会（第 1 回 [1]：2024 年 7 月 7 日、第 2 回 [2]：2024 年 8 月 29 日、第 3 回 [1]：2024 年 10 月 26 日、第 4 回 [1]：2025 年 2 月 22 日）を開催した。執行部会（第 1 回 [1]：2024 年 7 月 27 日、第 2 回 [1]：2024 年 9 月 29 日、第 3 回 [1]：2024 年 12 月 8 日、第 4 回 [1]：2025 年 2 月 1 日、通信第 1 回 [3]：2024 年 8 月 19 日～ 25 日）を開催した。

※ [1] オンライン
[2] ハイブリッド（対面＋オンライン）
[3] メーリングリストによる審議

(3) 入退会の申し出への対応を行い、会員名簿の管理を行った。2025 年 1 月 31 日時点での会員数は以下の通りである。

正会員 864 名（うち学生会費適用者 29 名、会費一括納入者 20 名）、賛助会員 9 社、名誉会員 18 名。

逝去：遠藤邦彦名誉会員、石井久夫会員、高橋学会員

(4) 2025 年学会賞・学術賞・若手学術賞・論文賞・奨励賞の受賞候補者の推薦募集（締め切り：2025 年 2 月 28 日）を会報（第四紀通信）・学会ホームページ及び会員メーリングリストを通じて行った。

(5) 転載許可申請に関する業務を行った（4 件承認）。

(6) シンポジウム等の共催・後援に関連する業務を行った（共催：第 34 回社会地質学シンポジウム、後援：第 67 回粘土科学討論会）。

(7) 名誉会員、功労賞受賞者、学会賞・学術賞・若手学術賞受賞者、論文賞・奨励賞受賞者に関する顕彰関係の手続きを行った。

(8) 会合の形式を明文化するための評議員会規程および執行部会規程の改正を行った。

(9) 会合の形式の明文化するため、会長、副会長の議決権、正会員の会費に関する会則の一部改正を行った。

(10) 埼玉県八潮市の陥没事故に関連して学会パンフレットに掲載した図の使用許可をテレビ朝日、TBS に出した。

(11)「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」に学会として賛同を表明した。

(12) 前回選挙管理委員会の答申（2023 年 3 月）をうけて、役員選挙規程の一部改正の検討を進めた。

(13) 顕彰規程等の見直しを継続的に進めた。

(14) 2025-2026 役員選挙準備に関する関連業務を行った。

1-2　会計委員会（委員長：堀　和明）

(1) 終身会員制度のための会費徴収スキームを構築して運用をはじめた。

(2) 2024 年仙台大会の決済処理、第 1 回事務局委託経費等の支払処理、学会ホームページリニューアル、各領域活動に関する支払処理等を行った。

(3) 2024 年度会計中間報告を取りまとめた（報告事項（2）、2024 年度会計中間報告参照）。

(4) 大会時における名誉会員の旅費・懇親会費、学会賞等受賞者の懇親会費を顕彰関係予算で支出する内規を定め、運用をはじめた。

(5) 学会の Zoom 契約について継続検討を進めている。

(6) 新規入会時の web 決済導入についての検討をはじめた。

1-3　編集委員会（委員長：苅谷愛彦）

(1)「第四紀研究」通常号及び特集号「縄文時代早期人とその生態―群馬県居家以岩陰遺跡を中心に―（工藤雄一郎委員長）」、特集号「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから（堀和明委員長）」の編集を進めた。

(2)「令和 6 年能登半島地震」に関する速報的論文（口絵および資料）について順次フリー公開した。

(3) 編集委員会（通常号）をメール審議形式で 8 回開催した。2025 年 2 月 14 日現在の通常号手持ち原稿（書評を除く）は受理前 11 編、受理済 0 編。

(4)「第四紀研究」投稿論文の電子付録について、学会ホームページでの公開はとりやめ J-STAGE Data のみとする内容変更に関して、投稿規定および第四紀研究電子付録掲載要項を一部改正した。

(5)「第四紀研究」のカラー印刷料金を第 64 巻第 1 号から値下げすることを会員に周知した。

(6) 賛助会員の学会誌掲載について検討を進めた。

(7) 古代ゲノムデータベース記載義務化について検討を進めた。

1-4　広報委員会（委員長：那須浩郎）

(1)「第四紀通信」の編集および学会ホームページ、会員メーリングリストの維持管理を行った。

(2)「第四紀通信」第 31 巻第 3、4 号、第 32 巻第 1 号を編集し、発行した。

(3) 上記「第四紀通信」各号の電子版（PDF 版）を、それぞれ発行前月の下旬に学会ホームページに掲載した。

(4) 学会ホームページを通じて広報、情報提供等を行った。

(5) 会員メーリングリストを通じて広報、情報提供等を行った。2024 年度の配信件数は 2025 年 2 月 22 日時点で 117 件（#1702 ～ 1818）。

(6) 学会ホームページリニューアルに関する準備を進め、2025 年 2 月上旬にリニューアルした。

(7) 領域 1 が行ってきた「人新世の科学的根拠とその否認について」の解説文書を学会ホームページ上に公開するとともに、学会としてプレス発表を行った。

1-5　行事委員会（委員長：池原　実）

(1) 日本第四紀学会 2024 年大会を 2024 年 8 月 29 日（木）～ 9 月 2 日（月）に東北大学青葉山北キャンパス（宮城県仙台市青葉区）において対面方式で開催した（大会実行委員長：堀　和明会員、実行委員：浅海竜司会員、石澤尭史会員、井龍康文会員、高橋尚志会員、遠田晋次会員、山田　努会員、伊藤晶文会員、目代邦康会員、西城　潔会員、池原　実行事委員長）。大会直前から期間中にかけて台風 10 号に翻弄されたが、一般研究発表を急遽、対面とオンラインのハイブリッドに切り替えるなどして、無事にすべてのプログラムを実施することができた。参加者は会員・非会員あわせて 136 名であった。8 月 30・31 日の一般研究発表は、口頭発表 31 件、ポスター発表 22 件であった。また、31 日午後には総会と授賞式が対面とオンラインのハイブリッド方式で行われた。9 月 1 日午前中には公開シンポジウム「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから」が開催され、5 件の講演があった。8 月 29 日午前にはアウトリーチ巡検「仙台市内の地形散策」、9 月 2 日には専門巡検「栗駒山の火山活動と岩手・宮城内陸地震」が行われた。

(2) 2024 年大会若手・学生発表賞受賞者の選考について選考委員会（水野清秀委員長、浅海竜司委員、白井正明委員、高原　光委員、小荒井　衛委員）を立ち上げて行った。南舘健太会員（口頭若手）、吉池奏乃会員（口頭学生）、林　尚輝会員（ポスター若手）、山根悠輝会員（ポスター学生）がそれぞれ受賞した。

(3) 2024 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会の関係者調整およびポスター製作および告知を行った。

(4) 2024 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会を 2025 年 2 月 22 日（土）9:00 ～ 12:05 にオンラインで開催した。事前申込者は 114 名、参加者は 75 名であった。講演は、学会賞受賞者の高原　光会員による「さらに詳細な古植生復元をめざして」、学術賞受賞者の加　三千宣会員による「別府湾堆積物研究から人新世の科学的根拠に至るまで」、学術賞受賞者の田村　亨会員による「砂質海岸堆積物の年代測定から何がわかるのか？」であった。

(5) 2025 年大会を 2025 年 8 月 28 日（木）～ 9 月 1 日（月）に島根大学松江キャンパスを会場として開催する予定で準備を進めている（大会実行委員長：齋藤文紀会員、実行委員：瀬戸浩二、香月興太、入月俊明、酒井哲弥、渡邉正巳（島根大）、中村唯史、井上雅仁（三瓶自然館）、石賀　敏（鳥取地学会）、池原　実（高知大・行事委員長）、ほか）。一般研究発表は 8 月 29・30 日、総会は 8 月 30 日、シンポジウム及び普及講演会は 8 月 31 日に公開／ハイブリッド形式にて開催予定。また専門巡検は 2 コース企画しており、8 月 28 日（植生史学会との共催）、9 月 1 日にそれぞれ実施を予定している。

(6) 学会設立 70 周年にあたる 2026 年記念大会を、2026 年 8 月後半を第一候補に茨城県つくば市で開催すべく検討を進めた。大会実行委員会は、産業技術総合研究所関係者を中心に構成する。また本大会は、通常の大会実行委員会、行事委員会に加えて学会設立 70 周年記念事業委員会もオーガナイザーとして参加して運営することとした。

1-6　渉外委員会（委員長：白井正明）

(1) 日本地球惑星科学連合（JpGU）関係

JpGU2025 大会（2025 年 5 月 25 ～ 30 日）にむけて、白井正明渉外委員長、石輪健樹会員がプログラム委員としてセッション登録準備をすすめた。

5 月 29 日「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」、5 月 26 日「活断層と古地震」、5 月 28 日「人新世・第四紀の気候および水循環（発表言語：英語）」ほか 2 件のセッションを学会が関わるセッションとして登録・指定した。

JpGU 学協会長会議が 2024 年 11 月 27 日（水）にオンラインにて開催され、山田和芳庶務委員長が参加した。

(2) 防災学術連携体関係

2.1.　7 月 30 日に開催された防災学術連携体総会に小荒井　衛会員が出席した。

2.2.「令和 6 年能登半島地震・7 か月報告会（開催：7 月 30 日、オンライン）」にて片岡香子会員が発表した。

2.3.　防災学術連携体幹事に、小荒井　衛会員が就任した。

2.4.「第 6 回防災に関する学術会議、学協会、府省庁連絡会（開催：8 月 30 日、オンライン）」にて鈴木毅彦会員、小荒井　衛会員が出席した。また、同会にて、宍倉正展会員が情報提供した。

2.5.　シンポジウム「阪神・淡路大震災 30 年　社会と科学の新たな関係（開催：1 月 7 日）」が開催され、会員 ML を通じて周知した。

2.6.　JpGU2025 大会にてパブリックセッション「阪神・淡路大震災から 30 年―教訓と進展」が開

催され、会報（第四紀通信）を通じて周知した。
(3) 自然史学連合
　とくになし
(4) その他
4.1. 地学オリンピック予選応募者に配布する「地球にわくわく未来ガイド」に学会案内を掲載した。
4.2. 日本ジオパークネットワーク事務局を通じて依頼があったジオパーク地震学習会（主催：地震学会）にコメンテーターとして山田和芳庶務委員長が持ち回り参加した。

1-7　領域 1「気候変動及び海洋の諸プロセス」（領域代表：横山祐典）
(1) 第 2 回海洋コア岩相記載武者修行イベントを 2024 年 11 月 16 日（土）～ 19 日（火）の期間に、高知大学海洋コア国際研究所にて開催した。参加者は 7 名であり、池原　研会員を講師として、加三千宣会員、鈴木克明会員、池原　実会員がサポートしながら実施した。
(2)「人新世」の新しい年代層序単元に深く関わった会員らによってまとめた解説文書「年代層序単元としての「人新世」の科学的根拠とその否認について―人新世作業部会の提案書に基づいた解説」を作成して公開した。また、プレスリリースに対する窓口対応を行った。
(3) 2024 年度東京大学大気海洋研究所の共同利用研究集会に「古気候のモデルとデータの比較に関する研究集会」の開催提案をした。

1-8　領域 2「陸上の諸プロセス」（領域代表：吾妻崇）
(1)「令和 6 年能登半島地震」に関する学会主催シンポジウムについて領域 5 とともに 2024 年 7 月 7 日（日）13 ～ 17 時に早稲田大学大隈記念講堂にてハイブリッド開催した。非会員による基調講演 2 件、会員による一般講演 6 件を行った。参加者は現地とオンラインをあわせて 105 名であった。
(2) Hokudan2025 北淡国際活断層シンポジウム（2025 年 1 月 23 ～ 25 日、オンライン）について情報を収集して、会員メーリングリストを通じて広報した。

1-9　領域 3「層序と年代基準」（領域代表：里口保文）
(1) 領域 1 が主体的にまとめた人新世に関する解説文書作成に協力した。

1-10　領域 4「人類と生物圏」（領域代表：海部陽介）
　とくになし

1-11　領域 5「現代社会に関わる第四紀学」（領域代表：小荒井　衛）
(1)「第四紀とは」の改訂版パンフレットの作成作業を進めた。
(2)「令和 6 年能登半島地震」に関する学会主催シンポジウムについて領域 5 とともに 2024 年 7 月 7 日（日）13 ～ 17 時に早稲田大学大隈記念講堂にてハイブリッド開催した。非会員による基調講演 2 件、会員による一般講演 6 件を行った。参加者は現地とオンラインをあわせて 105 名であった。

1-12 オンライン委員会（委員長：久保田好美）
(1) 2024 年度の学会行事等を web 上のカレンダーを作成してアップした。
(2) 2024 年総会、2024 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会のオンライン開催に向けた準備を行った。

1-13 学会設立 70 周年記念事業委員会（委員長：鈴木毅彦）
(1) 学会設立 70 周年の記念大会を 2026 年 8 月に茨城県つくば市で開催することを検討した。（詳細は行事委員会報告（6）参照）
(2) 学会設立 70 周年に関する記念事業のひとつとして進めている朝倉書店発行の図説『日本の自然史―第四紀の人と環境（仮題）』については、出版本編集委員会（須貝俊彦委員長）が主導しながら、順調に進められている。現状では 2026 年 4 月刊行とするスケジュールとなっている。

【資料 2】　2024 年度会計中間報告
（P18~19 参照）

【資料 3】 日本第四紀学会 役員選挙規程の一部改正

（修正部分を見え消し表示している。下線部分は新規追加、修正・削除部分となる。）

日本第四紀学会 役員選挙規程

（1990 年 8 月 19 日，総会にて決定）
（1994 年 8 月 26 日評議員会にて一部改正）
（2011 年 5 月 24 日評議員会にて一部改正）
（2016 年 9 月 17 日評議員会にて一部改正）
（2017 年 2 月 24 日評議員会にて一部改正）
（2017 年 8 月 26 日評議員会にて一部改正）
（2018 年 8 月 24 日評議員会にて一部改正）
（2021 年 1 月 22 日評議員会にて一部改正）
<u>（2025 年 2 月 22 日評議員会にて一部改正）</u>

第 1 章 総則
（目的）
第 1 条　本規程は，日本第四紀学会会則第 12 条に基づき，その役員選挙について規定する．
（適用範囲）
第 2 条　本規程は，日本第四紀学会会長・副会長・評議員の選挙について適用する．
<u>2. 本規程に定めるもののほか，役員選挙に係わる取扱い等は，別途内規に定める．</u>
（役員の定数）
第 3 条　会長及び副会長の定数は，日本第四紀学会会則第 11 条による．評議員数は，領域に所属する正会員数に基づき，本規程で定める．
（規程変更）
第 4 条　この規程の変更は評議員会の議決による．

第 2 章 選挙管理
（選挙事務の管理）
第 5 条　選挙事務は，選挙管理委員会が管理，運営する．
第 6 条　選挙管理委員会は，会長・副会長・評議員の選出に関する業務を行い，経過及び当選人を次点者を含めて会長に答申する．
（選挙管理委員会の構成）
第 7 条　選挙管理委員会は 5 名の正会員をもって構成する．委員の選出は，執行部会が候補者を推薦し，評議員会がこれを決定する．執行部会員および会計監査は選挙管理委員になることができない．
第 8 条　選挙管理委員が会長・副会長選挙における第 18 条第 1 項および第 2 項が示す候補者，もしくは評議員選挙における第 22 条第 1 項および第 2 項が示す候補者になった場合には，選挙管理委員を辞任しなければならない．
第 9 条　選挙管理委員会の委員長は委員の互選による．
第 10 条 委員長は選挙管理委員会を代表し，その事務を総括する．
第 11 条 選挙管理委員会は，委任状を含め委員の過半数が出席しなければ開くことができない．
第 12 条 選挙管理委員会の議決は委員の過半数で決定し，可否同数のときは委員長が決定する．
第 13 条 選挙管理委員会は必要に応じ，執行部会と合議の上，その事務補助者を委嘱することができる．
第 14 条 選挙事務の運営に関し，必要な事項は選挙管理委員会がこれを決め，執行部会の了承を得る．

第 3 章 選挙権および被選挙権
第 15 条 本規程による会長・副会長および評議員選挙の選挙権及び被選挙権を持つものは，選挙実施該当年の 2 月 1 日時点の本会正会員のうちで当該年度の会費を納めている者とする．ただし，会則

第 11 条により，会長を 2 期務めた正会員は会長の被選挙権を，副会長を 2 期務めた正会員は副会長の被選挙権を有さない．また選挙時に 6 期連続評議員となっている正会員および会長経験者は評議員の被選挙権を有さない．

第 4 章 選挙の方法

（会長・副会長選挙）

第 16 条 投票は，すべて無記名とする．

第 17 条 会長および副会長の選挙は，公示された期日までに届け出があったそれぞれの候補者に対して選挙用番号を用いて投票する方式で行う．

第 18 条 会長あるいは副会長の被選挙権を有する正会員は，立候補届出期間内に立候補届出書を選挙管理委員会に提出して，候補者になることができる．

2. 会長あるいは副会長の被選挙権を有する正会員は，その者の承諾の下に，立候補届出期間内に，選挙権を有する 2 名以上の正会員が推薦届出書を選挙管理委員会に提出することによって，候補者となる．

3. 候補者となった者は，立候補届出期間終了日の 7 日後までに，候補者辞退届を選挙管理委員会に提出して，候補者を辞退することができる．

第 19 条 辞退届出を締め切った時点において，登録された候補者数が定数と同数以下の場合には，無投票当選とする．また，候補者が評議員選挙の被選挙権を有している場合には，無投票当選が確定した時点で評議員選挙の被選挙権を失う．

第 20 条 会長選挙は 1 名以内に投票する．副会長選挙は 2 名以内に投票する．

（評議員選挙）

第 21 条 評議員選挙は，第 22 条第 1 項および第 2 項にかかわらず，被選挙権を有する全ての正会員を対象とした投票によって行われる．

第 22 条 評議員の被選挙権を有する正会員は，立候補届出期間内に立候補届出書を選挙管理委員会に提出して，候補者となることができる．

2. 評議員の被選挙権を有する正会員は，その者の承諾の下に，選挙権を有する 2 名の正会員が，立候補届出期間内に，推薦届出書を選挙管理委員会に提出することによって候補者になる．

3. 候補者は，立候補届出期間終了日の 7 日後までに，辞退届を選挙管理委員会に提出して，候補者を辞退することができる．

4. 正会員は全ての領域の被選挙人への投票権を有する．ただし，当該領域に所属する 正会員の票は 1 ポイントとして集計し，他の領域に所属する正会員の票は 0.2 ポイントとして集計する．

5. 各領域の評議員定数は次の通りとする．
   正会員数が 125 ~~150~~ 名以下の領域・・・5 ~~6~~ 名
   正会員数が 126 ~~151~~ 名以上の領域・・・25 名につき評議員を 1 名とする

6. 領域は以下の 5 つとする．
   領域 1：気候変動及び海洋の諸プロセス
   領域 2：陸上の諸プロセス
   領域 3：層序と年代基準
   領域 4：人類と生物圏
   領域 5：現代社会に関わる第四紀学

7. 被選挙人の所属領域は選挙該当年の 2 月 1 日時点で登録されている領域とする．

第 5 章 被選挙人名簿

（被選挙人名簿）

第 23 条 被選挙人名簿は選挙実施該当年 2 月 1 日時点の会員名簿に基づくものとする．

第 6 章 投票と開票

第 24 条 選挙は，電磁的なシステムをもって行なう．~~ただし，電磁的なシステムによる投票が出来ない選挙人は，選挙管理委員会が作成する投票用紙を利用した郵便による投票をもって行なうことができる．~~

（開票）

第 25 条 投票の効力は選挙管理委員会の決定による．~~その際，第 26 条の無効投票の規定に触れない限りにおいて，その投票した選挙人の意志が明白であれば，その投票を有効とするようにしなければならない．~~

（無効投票）

第 26 条 ~~郵便による投票の場合，~~次の各号に該当する事項が含まれる投票は，~~その投票用紙に記されている~~全ての投票を無効とする．

~~(1) 投票用紙に署名捺印したもの．~~

~~(2) 定数よりも多くの候補者に投票したもの．~~

~~(3) 投票の締切到着が締切日を過ぎたもの．~~

~~(4) 会長選挙および副会長選挙で，候補者以外の選挙用番号が記されたもの~~

(1) 投票の締切日時までに投票されていないもの．

(2) 第 15 条に定める選挙権を有する者になりすまして投票したもの．

(3) その他選挙管理委員会が定めた投票の方法にしたがっていないもの．

第 27 条 副会長選挙で同一の候補者の選挙用番号が記されたもの，および評議員選挙で同一の候補者の選挙用番号が記されたものは，一票のみ有効とする．

第 7 章 当選人

第 28 条 各選挙において，有効投票数の多い順に定数までを当選人とする．当選人を定めるに当たり，得票数が同数であるときは年長順とする．

第 29 条 会長，副会長，評議員の選挙は同時に行う．その結果，次期会長と次期副会長が評議員に当選した場合は評議員の当選を無効とする．

第 8 章 選挙管理のための経費

第 30 条 選挙に必要な経費は選挙実施該当年度の予算に計上する．

付 則 本規程は，202~~1~~ 5 年 ~~10~~ 2 月 22 日よりこれを実施する．

【資料 4】 役員選挙の取扱い等に関する内規の策定について

役員選挙の取扱い等に関する内規

（2025 年 2 月 22 日　評議員会にて決定）

[評議員定数に関する取扱い]

各領域の評議員定数を決定する正会員数は，選挙実施該当年 2 月 1 日時点の会員名簿に基づくものとする．

[領域未指定正会員の取扱い]

領域未指定の正会員は，評議員の被選挙権を有さない．

領域未指定の正会員は，評議員の選挙権を有するが，すべての票は 0.2 ポイントとして集計する．

[その他]

本内規の変更には，評議員会の承認を必要とする．

本内規は，2025 年 2 月 22 日より施行する．

【資料 2】 2024 年度会計中間報告

日本第四紀学会

2024年度収支中間会計報告

(2024年7月1日～2024年12月31日現在)

収 入 の 部 (単位：円)

科目	予算額 ①	12月31日現在②	増減 ② － ①	執行率 ② / ①	摘要
会費収入	7,796,000	7,395,000	-401,000	94.9%	正会員817名、正会員(終身)20名、学生会員29名、賛助9社 (2024年12月31日時点)
正会員会費収入	7,596,000	7,215,000	-381,000	95.0%	通常会員会費 6,210,000円
					終身会員会費 909,000円
					学生会員会費 56,000円
					海外会員会費 40,000円
賛助会員会費収入	200,000	180,000	-20,000	90.0%	20,000円×8社(9口)
誌代	600,000	0	-600,000	0.0%	※丸善収入予定 (214,016円)
別刷代・超過頁代収入	250,000	205,640	-44,360	82.3%	63巻3号 別刷・超過頁代・カラー代等
雑収入	150,000	312,229	162,229	208.2%	2024年大会返金 (237,697円) 、学術著作権使用料分配金
利子収入	500	1,286	786	257.2%	預金利息
広告料収入	0	0	0		
役員選挙積立金取崩収入	200,000	200,000	0		2025年役員選挙
INQUA対策積立金取崩収入	0	0	0		
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0		
予備費積立金取崩収入	0	0	0		
収入合計	8,996,500	8,114,155	-882,345	90.2%	
前期繰越金	22,395,078	22,395,078	0	100.0%	
合計	31,391,578	30,509,233	-882,345	97.2%	

支 出 の 部 (単位：円)

科目	予算額 ①	12月31日現在②	増減 ② － ①	執行率 ② / ①	摘要
会誌発行費	3,301,200	583,275	-2,717,925	17.7%	第四紀研究 63巻3号～4号
印刷費	1,700,000	583,275	-1,116,725	34.3%	63巻3～4号印刷費・J-STAGE掲載費用
編集費	300,000	0	-300,000	0.0%	※年度末精算
編集人件費	1,201,200	0	-1,201,200	0.0%	※年度末精算
別刷印刷費	100,000	0	-100,000	0.0%	
会誌・会報発送費	550,000	222,344	-327,656	40.4%	会誌・通信発送関連費用
会報発行費	800,000	512,185	-287,815	64.0%	第四紀通信 31巻3～4号
印刷費	500,000	315,040	-184,960	63.0%	
編集費	90,000	87,945	-2,055	97.7%	第四紀通信編集費
編集人件費	210,000	109,200	-100,800	52.0%	第四紀通信編集アルバイト代
学会HP運営費	1,670,000	1,323,990	-346,010	79.3%	HP更新アルバイト代、ドメインサービス、新HP作成費用 (1,246,300円)
大会運営準備金	380,000	0	-380,000	0.0%	
巡検準備金	100,000	0	-100,000	0.0%	
講演会・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ費	50,000	0	-50,000	0.0%	
学会賞等顕彰費	500,000	257,940	-242,060	51.6%	学会賞等賞状作成費、副賞、受賞者大会招待費
会議費	100,000	0	-100,000	0.0%	
通信費	200,000	23,420	-176,580	11.7%	事務通信費等
旅費・交通費	250,000	16,424	-233,576	6.6%	会計監査会
印刷費	350,000	92,851	-257,149	26.5%	コピー代等
業務委託費	2,300,000	825,000	-1,475,000	35.9%	第1回業務委託費概算
領域活動費	750,000	188,829	-561,171	25.2%	
領域1	*150,000*	*102,583*	-47,417	*68.4%*	11月開催：海洋ｺｱ岩相記載武者修行イベント
領域2	*150,000*	*43,123*	-106,877	*28.7%*	7月開催：能登半島ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
領域3	*150,000*	*0*	-150,000	*0.0%*	
領域4	*150,000*	*0*	-150,000	*0.0%*	
領域5	*150,000*	*43,123*	-106,877	*28.7%*	7月開催：能登半島ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ
INQUA対策費	0	0	0		
役員選挙費	400,000	0	-400,000		
INQUA対策積立金繰入支出	200,000	0	-200,000	0.0%	
役員選挙費積立金繰入支出	500,000	0	-500,000	0.0%	
予備費積立金繰入支出	0	0	0		
加盟学協会分担金支出	50,000	20,000	-30,000	40.0%	防災学術連携体
国際科学技術コンテスト協賛金支出	50,000	0	-50,000	0.0%	
支払手数料	300,000	163,783	-136,217		会費Web決済関連支払手数料 (りそな)
雑費	50,000	7,205	-42,795	14.4%	振込手数料等
予備費	300,000	0	-300,000	0.0%	
支出合計	13,151,200	4,237,246	-8,913,954	32.2%	
次期繰越金	18,240,378	26,271,987	8,031,609	144.0%	
合計	31,391,578	30,509,233	-882,345	97.2%	

日本第四紀学会

貸 借 対 照 表
(2024年12月31日現在)

(単位：円)

借方 科目	借方 金額	貸方 科目	貸方 金額
流動資産		流動負債	
郵便振替	6,011,861	前受会費	81,000
小口現金	2,439,553		
普通預金	17,931,597	小計	81,000
現金(事務局)	28,976	正味財産	
未収会費	441,000	名簿作成積立金	0
		役員選挙積立金	0
固定資産		INQUA対策積立金	500,000
定期預金	10,000,000	予備費積立金	10,000,000
		次期繰越金	26,271,987
		(前期繰越金	22,395,078)
		(当期収支差額	3,876,909)
		小計	36,771,987
合計	36,852,987	合計	36,852,987

財 産 目 録
(2024年12月31日現在)

資 産 の 部 (単位：円)

科目	摘要	金額
郵便振替	郵便局	6,011,861
小口現金	編集書記手許金	2,439,553
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	13,894,690
	三井住友信託銀行本店営業部	206,861
	りそな銀行新宿支店(Web決済専用口座)	3,830,046
現金	事務局手持ち金	28,976
未収会費		441,000
流動資産合計		26,852,987
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000
固定資産合計		10,000,000
合計		36,852,987

負 債 の 部 (単位：円)

科目	摘要	金額
前受会費	2025年度以降年会費	81,000
合計		81,000

正味財産の部 (単位：円)

科目	摘要	金額
名簿作成積立金	名簿作成積立金	0
役員選挙積立金	役員選挙積立金	0
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	500,000
予備費積立金	予備費積立金	10,000,000
次期繰越金		26,271,987
	前期繰越金	22,395,078
	当期収支差額	3,876,909
合計		36,771,987

◆日本第四紀学会 2024 年度第 4 回執行部会議事録

日　時：2025 年 2 月 1 日（土）9:00 ～ 11:50
方　法：Zoom システムを用いたオンライン開催
出席者：鈴木毅彦（会長）、須貝俊彦（副会長）、北村晃寿（副会長）、山田和芳（庶務委員長）、堀　和明（会計委員長）、苅谷愛彦（編集委員長）、那須浩郎（広報委員長）、白井正明（渉外委員長）、池原　実（行事委員長）、横山祐典（領域 1 代表）、吾妻崇（領域 2 代表）、里口保文（領域 3 代表）
欠席者：海部陽介（領域 4 代表）、小荒井　衛（領域 5 代表）
オブザーバー参加　永峯菜穂子・齋藤咲良（事務局：株式会社春恒社）

主な報告事項

（1）日本地理学会が編集している「日本地理学会百年史」の中で、関連学会の動向として第四紀学会を紹介する原稿について校正中である。
（2）転載許可 1 件を行った。
（3）2025-26 役員選挙に関する準備状況について情報共有を行った。
（4）埼玉県八潮市で発生した陥没事故に関連してテレビ朝日に学会紹介パンフレットに掲載されている図の使用許可を出した。
（5）2024 年度会計中間報告がなされた。とくに、学会ホームページリニューアルに係る費用、領域活動に係る費用の支出があった。
（6）第四紀研究第 64 巻第 1 号を J-STAGE で 2 月 1 日に発行し、冊子体も 2 月中旬に配付予定である。
（7）編集委員会を 2 回開催し、論文の採択等を審議した。
（8）第四紀研究第 64 巻第 1 号よりカラー印刷料金を値下げ（1 ページあたり 11,000 円）することとし、第 64 巻第 1 号巻末に情報を掲載した。近日中に会員メーリングリストで周知を行う予定である。
（9）2025 年 1 月 25 日現在の編集状況は、通常号は受理前 10 編、受理済み 0 編、一方特集号は受理前 8 編、受理済 1 編である。
（10）第四紀研究第 64 巻第 2 号（2025 年 5 月刊行）に掲載する原稿が少ないため、積極投稿を促すこととした。
（11）第四紀通信第 31 巻第 4 号（2024 年 11 月号）を編集して発行した。同通信第 32 巻第 1 号（2025 年 2 月号）についても編集は終了して、近日中に印刷に入る。
（12）学会ホームページのリニューアル作業が進められている。2 月上旬に公開予定となっている。セキュリティ向上のための常時 SSL 化を実施するための定常的コストが発生することが共有された。
（13）2025 年 2 月 22 日（土）午前に開催する 2024 年日本第四紀学会　学会賞・学術賞記念講演会の確定プログラムについて報告され、現在の参加登録状況について報告がなされた。参加人数が予想より多くなった場合、Zoom の契約変更の可能性がある。
（14）2025 年 8 月 28 日（木）～ 9 月 1 日（月）の期間で実施する 2025 年島根大会の開催プログラムや準備状況について共有した。
（15）日本地球惑星科学連合（JpGU）2025 大会について、学会が主な開催者となる「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」、「活断層と古地震」「人新世・第四紀の気候および水循環（英語セッション）」の各セッションの時間割が確定したことが共有され、投稿スケジュール等についての報告があった。
（16）学会として加盟している防災学術連携体関係として、1 月 17 日にシンポジウム「阪神・淡路大震災 30 年　社会と科学の新たな関係」が開催されたこと、JpGU2025 大会でもパブリックセッションが開催されることが共有された。
（17）2025 年 1 月 23 日～ 25 日に開催された北淡国際活断層シンポジウム 2025（事務局：奥村晃史会員）についての開催報告がなされた。
（18）学会設立 70 周年記念事業に関して出版する一般書籍本について、原稿提出状況および今後の進め方について確認した。当初の計画通りに進んでいることが報告された。

主な審議事項

（1）2025-26 役員選挙日程について承認した。
（2）役員選挙時の選挙事務補助員を役員選挙規程に基づき、学会事務局の齋藤咲良さんに委嘱することを承認した。
（3）学会設立 70 周年記念事業に関して出版する一般書籍本について、再度刊行までの作業プロセスを再確認した。原稿の相互チェック体制の確認、各項目のサイトを網羅して示す地図の取扱いについて議論して方針を定めた。また出版会社を含めた出版本編集委員会の開催日時を決定した。

（4）会費未納者の取扱いについて議論した。事務局を通じて積極的に会費納入促進をはかることとした。
（5）学会ホームページリニューアルに関連して、学会アウトリーチを紹介するような使い方について提案があり、領域 5 の中で一度検討をすることとした。

以上

◆学生・院生の皆さまへ「学生・院生会費継続届け」提出のお願い

日本第四紀学会では、正会員（学生・院生会費：2,000 円）にて継続する場合、毎年在籍中であることを「学生・院生会費継続届け」として提出していただくことになっています。

2025 年度（2025 年 7 月 1 日～ 2026 年 6 月 30 日）を正会員（学生・院生会費）として、継続希望される方は、A4 判の用紙（様式自由・文書作成ソフト使用）に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか、有効期限が明記された学生証のコピーを 2025 年 6 月 6 日（金）までに日本第四紀学会事務局までメール添付にてお送り下さい。

本届が提出されない場合は、正会員（通常会費：9,000 円）になりますのでご注意下さい。

なお、ポスドク研究員等の有期雇用者、日本学術振興会特別研究員（PD）などは通常会費となります。

送付先：日本第四紀学会事務局
E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com

◆ 2024 年度第 5 回評議員会の案内

以下の内容で、第 5 回評議員会が開催されます。

日　時：2025 年 6 月 15 日（日）9:00 ～ 12:00
形　式：Zoom システムを用いたオンライン会議
議事内容（予定）：2025 年日本第四紀学会学会賞・論文賞等受賞者の決定ほか

評議員会メンバーの方には、後日メーリングリストにて詳細内容をご連絡いたします。
なお、会長経験者・名誉会員の方におかれましては、個別に案内を差し上げません。
評議員会に参加される方は、6 月 13 日（金）までに下記庶務委員会まで電子メールにてご連絡をお願いします。
メールアドレス：shomu(at)quaternary.jp

（庶務委員会）

◆遠藤邦彦先生を偲ぶ

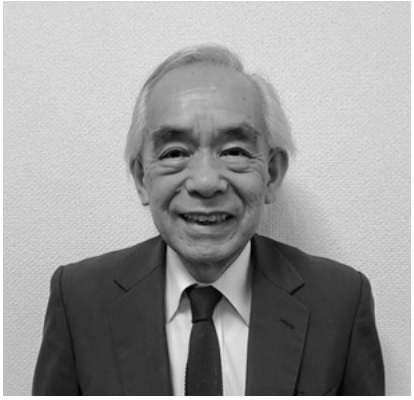
日本第四紀学会元会長で名誉会員の遠藤邦彦先生は 2024 年 11 月 22 日にご自宅で急逝されました．享年 82 でした。あまりにも突然のご逝去で深い悲しみを禁じ得ません。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

遠藤邦彦先生は 1942 年 2 月東京都練馬区豊玉に誕生され、1957 年に東京学芸大学附属大泉中学校、1960 年に東京都立西高等学校を卒業され、1961 年に東京大学教養部に入学されました。1964 年に同大学理学部地学科地理コース、1965 年に同大学理学系大学院修士課程地理学専攻、1967 年に同大学理学系大学院博士課程地理学専攻に進学され、1972 年 3 月に博士課程を満期退学されました。

その後、1 年間日本学術振興会奨励研究員をされると同時に、1972 年に日本大学文理学部の非常勤講師、1973 年に同学部応用地学科（1995 年から地球システム科学科、現在の地球科学科）の専任講師、1977 年に助教授、1988 年に教授に就任されました。以来、2012 年に定年退職されるまで 39 年間の長きにわたり研究と学生の教育に専念され多くの業績と多くの卒業生を社会に輩出され、1995 年からは中国華東師範大学（上海市）顧問教授も務め海外との交流にもご尽力されました。

日本大学を退職後、埼玉県戸田市のマンションの一室に先生ご自身で研究室を移され日本大学に勤務された頃と変わらず研究を進められて多くの業績を残されました。2019 年に生活基盤である地盤について蓄積されたデータと最新の技術をもって新たに解析し、研究者、技術者、一般市民へ広く情報伝達・共有することを目的とした NPO 法人首都圏地盤解析ネットワーク（GaNT）を設立し、代表理事として法人の運営に務められました。2023 年 6 月ごろから体調を崩され、長期の入院の後、2024 年 1 月に西東京市のご自宅の近所に研究室を構えご逝去される前日まで研究を続けられました。

先生は日本第四紀学会を第一にお考えになり、1977 年～ 2010 年（13 期）に評議員、2007 年～ 2008 年に副会長、2009 年～ 2012 年に会長、その他にも編集、会計幹事および行事などの幹事を 7 期 14 年間務められました。さらに、学会の 40 周年記念事業では「第四紀露頭集―日本のテフラ」や 50 周年記念事業では「デジタルブック最新第四紀学」などの出版刊行に多大な貢献をされ、併せて、日本で初めて開催された国際第四紀学連合（INQUA）第 19 回名古屋大会の招致および大会運営にご尽力されました。当会のみならず日本地理学会災害対策対応委員会初代委員長や富士学会理事長などの役員も歴任されました。



遠藤邦彦先生の近影（杉中佑輔氏撮影）

先生のご研究は、学生時代に卒業論文として利根川に沿う完新世段丘から始まり、日本全国の海岸平野を調査され、砂丘層中の“クロスナ層”は砂丘の固定期を示し新期と旧期クロスナ層が全国共通して見られることを明らかにされました（Endo，1986）。さらに、海岸砂丘を含む沖積層の研究と火山活動を絡めながら、関東平野を中心に多くのボーリング資試料などの地質データに基づいた沖積層の研究（遠藤ほか，1983 など多数）を進められました。また、三宅島、伊豆大島、雲仙普賢岳、有珠山などの火山噴火や火山災害や、日本海中部地震、北海道南西沖地震、兵庫県南部地震の地震災害などの自然災害に関する調査研究も進められました。一方、海外では、シリア・レバノンにおける西アジア人類遺跡調査、オーストラリア・ニュージーランドにおける砂丘調査、1989 年から始まったタクラマカン沙漠および力ザフスタンのバルハシ湖一帯における中国との国際共同研究や科学研究費による中国の太湖ボーリング調査研究などを行ってきました。国内外で沖積層、テフラ、古環境、火山や地震の自然災害など幅広い第四紀に関わる調査研究に携われ、その成果を主に会誌「第四紀研究」に公表し、日本第四紀学会論文賞を 1995 年、2017 年と 2021 年に受賞され、日本の第四紀研究の発展に多大な貢献をされました。以上のような学術的社会的貢献に対し、2021（令和 3）年秋の叙勲にて瑞宝中綬章を受章されました。

これまでの研究成果を一冊の本にまとめた「日本の沖積層―未来と過去を結ぶ最新の地層―」を発刊（遠藤，2015，2017)、考古学とのコラボで「縄文海進―海と陸の変遷と人々の適応―」を発刊（遠藤ほか，2022)、富士学研究に掲載された「最近の研究などから」（遠藤，2024）が先生の絶筆となり、ご逝去される直前まで研究・執筆活動を貫かれました。

私は大学院時代に関東ローム層に興味を持ち、先生からテフラ研究を基礎から教えていただき、約半世紀になります。その間、遠藤先生のゼミ合宿や巡検に参加させていただき、夜半過ぎまで討論したこと、INQUA の北京、ダーバン、ケアンズ、ベルンや名古屋各大会に誘っていただき研究発表までさせていただいたこと、戸田の研究室に卒業生や研究室のメンバーが集まった時に先生が好物のマトンを振る舞って下さったことなど、数々の厳しくもあり心温まる思い出があり感謝の念に堪えません。また、多くの遠藤先生のご研究の一つでも引き継げることが出来たらと考えております。

遠藤先生、どうか安らかにお眠り下さい。ありがとうございました。

鈴木正章（文京区教育センター）

＜引用文献＞

遠藤邦彦・関本勝久・高野　司・鈴木正章・平井幸弘(1983)関東平野の沖積層．アーバンクボタ，No.21，26-43.

Endo, K.（1986）Coastal Sand Dunes in Japan. Proceedings of the Institute of Natural Science, Nihon University，21，37-54.

遠藤邦彦（2015，2017）日本の沖積層―未来と過去を結ぶ最新の地層―．冨山房インターナショナル，475p.

遠藤邦彦・小宮雪晴・野内秀明・野口真利江・杉中佑輔・是枝若奈（2022）縄文海進―海と陸の変遷と人々の適応―．冨山房インターナショナル，129p.

遠藤邦彦(2024)最近の研究などから．富士学研究，20（1)，54-61.

★★★　情報発信を希望される方へお願い　★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。
提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

（1）情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願い致します。
1）メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス（jaqua-koho(at)quaternary.jp）へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
2）広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
3）イベント等の周知などで当該イベントの URL がある場合、その URL も載せてください（ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します）。
4）第四紀学にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
5）学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
6）添付ファイルは ML に配信致しません。

（2）第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会 HP への掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報（こちらは HP のみの掲載となります）等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

（3）第四紀通信の表紙用の写真（または作成した画像）を受け付けています。詳細は第四紀通信第 27 巻第 6 号の巻末をご覧ください。

（4）第四紀通信は 2 月・5 月・8 月・11 月の初旬に刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：那須浩郎・田村　亨・石村大輔・竹下欣宏・三田村宗樹
広報書記：岩本容子・奥村公弥子
日本第四紀学会ホームページ http://quaternary.jp/ から第四紀通信バックナンバーの PDF を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局
〒 169-0072　東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号　新宿ラムダックスビル
株式会社春恒社　学会事業部内
E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com　　電話：03-5291-6231　　FAX：03-5291-2176